

こけしの絵付け

国立花山青少年自然の家

1 活動の概要及びねらい

こけしの木地（鳴子こけし）に自分の工夫した絵付けを行い、伝統こけしの良さと、オリジナルこけしの良さに気づきます。

2 時期・時間

通年・2～3時間

3 活動場所

クラフト室、研修室等

4 準備

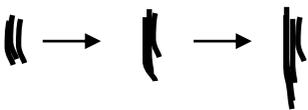
自然の家で貸し出しできる物	利用者で準備する物
絵付用筆（大小）、絵付用皿（小皿）、染料（黒・紅・緑）、ろう	活動に適した服装、布きれ、新聞紙 絵付用白木こけし（食堂売店で購入可）

5 実施例

① 健康状態を確認し、服装を点検します。

② 用具を準備します。

新聞紙を敷き、色ごとの筆、小皿を3枚ずつ配り、染料をほんの少しずつ分けます。

	<p>《顔を描く》 まゆ毛、まつ毛、目、鼻、口、びん（もみあげ） ※絵付けする時は、頭部と胴部の接合部分もちます。 ※口は小さく紅で描きます。 ※びんは内側から外側へ描いていきます。 </p>
	<p>《頭を描く》 前髪、後髪、かんざし ※かんざしは紅の染料を使います。 ※黒の染料が乾いてから着色します。</p>

	<p>《胴を描く》</p> <p>①菊模様を描く (鳴子こけしの胴模様は、菊を中心としたものが基本です。) ※花は紅で中心に向かって筆をはこびます。</p> <p>②葉を描く ※葉は緑の染料を使います。</p>
	<p>《ろうぬり》</p> <p>①ろうぬりは、全体に均一にぬります。 ※ろうぬりは、染料がよく乾燥してから行います。</p>
	<p>《つやだし》</p> <p>①光沢がでるまで布きれでよくみがきます。 ※ろうをぬると染料を弾くので、ろうぬり後は着色できなくなります</p>
	<p>①完成</p> <p>②後片付け ※残った染料は捨て、小皿をよく洗います。 ※筆はよく洗い、色別(黒・紅・緑)に分類します。 ※活動した場所を掃除します。</p>

⑪ 用具の後片づけと清掃

→清掃、用具の点検と返納を確実にお願いします。

6 留意点

- ・染料は手や衣類等に付くと落ちづらいので、気を付けてください。

[参考資料]

◎こけしの歴史

東北の温泉地で江戸末期から大正初期にかけて湯治客にお土産として売られた木製の人形玩具が始まりで、木地師(きじし)と呼ばれる人達がロクロを回し、木を削って作りました。

◎鳴子系こけし

鳴子こけしは、胴が太く、肩と襟が張り、中央部がややへこんだ安定感のある形状で、頭ははめ込みで、回すとキイキイと鳴るのが特徴です。